

Mitsui Fudosan

三井不動産 Story

もしもがんになったときに、
こんな場所があるということ
思い出してもらえたら。

海の匂いのするその場所に、
この世界の優しさを教えてくれる小さな家がある。
マギーズ東京。
がんの患者さんとその家族、そしてその友人たちが、
見失ってしまいたい自分をとりもどすための場だ。
専門の知識をもった心理士さんや看護師さんがいる。
その横でただお茶を飲んでくれるだけのひともいる。
話すのが苦手なんだと笑うひとがいる。
母の心配をする息子の話を聞くひとがいる。
その息子を思う母の話を聞くひとがいる。
誰かの家にいるみたいだ。
だから病院ではできない話ができる。
薬のことも、治療のことも、
家族のことも、昨日のドラマのことも、
同じように話ができる。
本人にとっても、家族にとっても、
それがどれだけ大切なことかここに来るとわかる。
ここをつくるために奔走した鈴木さんは
24才のとき乳がんになった。
そして、英国でマギーズセンターに出会った。
「この空間もひとも、私を抱きしめてくれる気がする」
その経験が原動力になった。
その思いに仲間が集まった。
いくつもの奇跡が重なって
海の匂いのするこの場所に
たくさんの方の優しさが集まって小さな家になった。
ひと月に500人くらいの方々が訪れる。
ひとがひとの力になっている。
笑顔を取り戻す力になっている。

いい街には、物語がある。

